

● 講師の略歴紹介

西河 洋一 (にしかわ よういち)

- ・**学歴** 2009年芝浦工業大学大学院工学マネジメント研究科(MOT)修了
- ・**職歴** 1982年に和田建設(株)、99年伏見建設(株)(アーネストワンの前身)に入社、2000年(株)アーネストワン代表取締役社長、13同社取締役会長(現在)、飯田グループホールディングス(株)代表取締役社長(現在)、12年当財団理事長(現在)。
- ・**学会など** 日本開発工学会会員、一般社団法人MOT振興協会理事。

小平和一朗(こだいら かずいちろう)

- ・**学歴** 1970年芝浦工業大学電子工学科卒、2005年芝浦工業大学大学院工学マネジメント研究科(MOT)修了、2007年芝浦工業大学大学院工学研究科博士(後期)修了(学術博士)
- ・**職歴** 1970年大倉電気(株)入社、技術部長、社長室長、営業部長、情報通信事業部長(2002年まで)、2004年(株)イー・ブランド21設立し代表取締役(現在)、14年東京経済大学技術経営実践スクール講師(現在)、12年当財団専務理事(現在)。
- ・**学会など** 日本開発工学会理事・副運営委員長、学会誌「開発工学」編集委員長。研究・技術計画学会など。

大橋 克己(おおはし かつみ)

- ・**学歴** 1966年一橋大学法学部卒
- ・**職歴** 66年(株)クラレ(倉敷レーヨン)入社、67年より97年まで繊維事業本部に所属し国内繊維販売に従事、97年総務室長(本社)、98年メディカル事業本部長、99年取締役、2003年常務取締役、04年化学品カンパニー担当、東京事業所長、クラレメディカル(株)担当委嘱、05年業務改革推進チーム担当、購買・物流本部担当委嘱、07年顧問、09年クラレ社友、12年当財団評議員(現在)。
- ・**学会など** 日本開発工学会理事・事務局長(現在)、神奈川大学歴史民俗資料学科聴講生、俳句会(雲の峰の会員)

浅野 昌宏(あさの まさひろ)

- ・**学歴** 1969年芝浦工業大学電子工学科卒
- ・**職歴** 69年丸紅飯田(株)(現丸紅(株))入社、76年リビア通信工事事務所長、82年アブダビ通信工事事務所長、89年通信機械部通信機械第二課長、93年通信機械部部長代理、94年ナイロビ支店長、98年(株)グローバルアクセス代表取締役社長、99年丸紅ネットワークシステムズ(株)代表取締役社長、2002年(株)JCN南横浜代表取締役社長、06年(株)JCNコアラ代表取締役社長、07年(株)JCNコアラ葛飾代表取締役社長、09年(株)JCN関東常勤監査役、14年当財団理事(現職)など。
- ・**学会など** 一般社団法人アフリカ協会副理事長(現在)。

杉本 晴重(すぎもと はるしげ)

- ・**学歴** 1970年早稲田大学理工学部電気通信学科卒
- ・**職歴** 70年沖電気(株)入社、90年電子通信事業部複合通信システム事業部技術第一部長、98年OKI Network Technology President、2000年沖電気執行役員、02年研究開発本部長、04年常務取締役・CTO、06年中国ビジネス本部長、08年(株)沖データ代表取締役社長・CEO、12年沖データ、沖電気取締役、14年当財団理事(現在)など。

● 塾生募集要領

- (1)開催期間 2015年9月～2016年8月
- (2)場 所 一般財団法人アーネスト育成財団事務所内(渋谷区代々木1-57-2 ドルミ代々木704号)
- (3)受講料(税込):受講生が所属する企業の売上規模に応じて変わります。
売上1億円未満:16万円、売上10億円未満:22万円、売上100億円未満:38万円、
売上100億円以上:50万円
- (4)募集定員 5名
- (5)応募資格 年齢 28～50歳程度、仕事に従事
- (6)申込方法 氏名、所属、住所、電話番号、Eメールを明記して、Eメール(office@eufd.org)にて、募集要項を入手してください。
書類選考後、面接試験を含む選抜試験を行います。
応募受付の期限(第1次募集)は、2015年5月15日財団事務所着とします。
お問い合わせは、Eメールにて担当の小平和一朗までお問い合わせください。



一般財団法人アーネスト育成財団
(Earnest Upbringing Foundation)

技術経営人財の育成と活用

西河技術経営塾・3期生募集

実践経営スクール・基礎コース

主催：一般財団法人アーネスト育成財団

変革の時代、第2創業しないと生き残れない

基本的な経営の基礎知識の修得と創造力の鍛錬を培う

会計数値を使って戦略を構築し、市場との対話に基づくマーケティングを演習する

次世代の日本型技術経営を

若手塾生とともに学び、

社会に役立つ**ビジネスを創生**する

平成27年(2015年)9月開講

西河技術経営塾の5つの特長

1. 日本型技術経営研究の成果を学ぶ
2. 実践的思考、変革的思考を塾生参加型で育成する
3. 働きながら学び、学んだことをすぐビジネスに生かす
4. 誠実な若手の技術経営人財を育成する
5. 定員5名の少数精鋭教育

● 塾長西河洋一(理事長)の挨拶

財団を作ろうと思ったのは「起業が少ない」そのためには「経営ができる人財を育成しよう」「経営ができる人財を育成する機関が日本には見当たらない」という問題に気付いたからです。

日本の持続的な成長と活性化を目指し、起業家や事業家の支援に取り組んでいます。具体的には、事業をするための技術経営人財を育成するためのセミナー、研修、研究委員会などを実施してきました。第3期生を募集する『実践経営スクール・基礎コース』は、中小企業の若手経営者を主たる対象としたスクールで、日本の産業の基盤を支える経営者を育成することになると期待しています。1期生や2期生と同様、塾長として塾生との意見交換に出来るだけ取り組みたいと考えています。



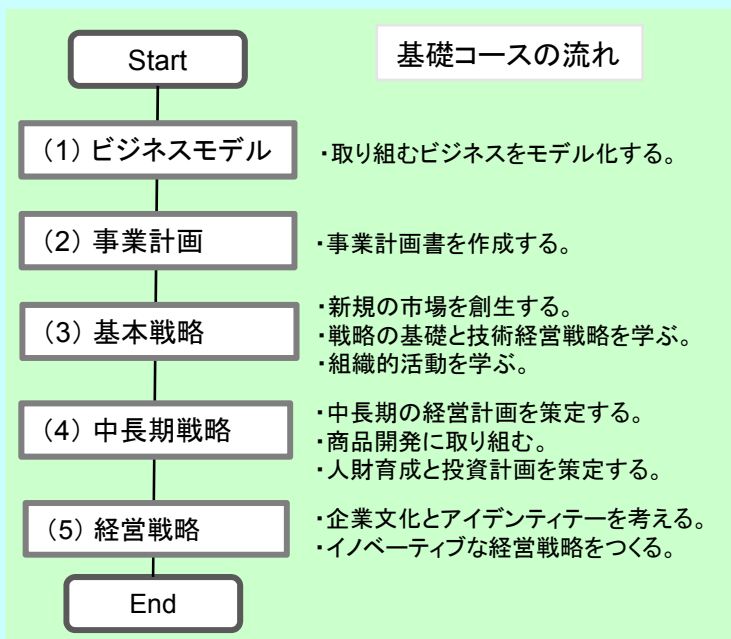
西河洋一塾長・理事長

● 『実践経営スクール・基礎コース』＜西河技術経営塾＞の概要


開講の背景

技術経営人財育成事業 実践経営スクール・基礎コースは、若手経営者向けに基本的な経営の基礎知識の修得と創生力の鍛錬を行う技術経営に関するビジネススクールです。中小企業の経営者の中には、若くして社長や経営の幹部として活躍されている方も多くいます。社長に就任したものの色々な事情で時間を掛けて実践的な経営経験をすることが出来なかつたり、ビジネススクールに行くにしても、適当な実践型の技術経営人財育成の場が無いなどで困っている方がいます。技術経営者の育成といっても技術者だけを対象にしたビジネススクールではありません、技術者をいかに使うか、いかにマネジメントするかを学びます。


若手経営者から「仕事をしながら経営を学びたい」という声 モノづくりの現場で豊富な経営経験や技術経営研究に従事してきた講師陣とともに、現在抱えているビジネス課題を塾生とともに解決しながら学習する、実践トレーニングを盛り込んだビジネススクールです。「基礎コース」の開講を決断したのは、若手経営者から「仕事をしながら経営を学びたい」という要望からです。日本の経営環境で、社会のビジネスリーダーとしての経営実践力を学んでいきます。経営学は複合学です。それを浅く広く、機能的に連携させながら短期間に総合力をたかめる学習の場と、創造力鍛錬の場を提供いたします。



第1期生の受講風景



「不振の会社を立て直すのに人員整理というリストラは愚策。社員の努力で何とかなるレベルまでブレークダウンするのが社長」と語る西河理事長。



「知識を実践に結び付け、知恵にまで自己変換する能力を塾生は獲得できるものと期待している。経験者の実践を通じて獲得した言説から知恵をくみ取る」と語る講師の大橋。




講演する小平専務理事(左)、第1期受講生の尾崎氏、講師の大橋氏、受講生の更科氏(右)



西河洋一塾長・理事長、2期生の入塾にあたって「経営を学ぶことで、かなり成長することができる」と。



海外市場創生を実践し、塾の中でプレゼンし、意見交換する1期生の尾崎一成氏。



「次の日から事業計画を上方修正」と語る2期生の小泉氏。



横浜・鶴見にある永井氏(2期生)の経営する「魚春ととや」にて番外の西河技術経営塾を開催した。

● 講義内容

毎週水曜日に開講、前期は9月スタート、後期は2月スタート

本コースは、前期と後期に分かれています。毎週水曜日に開講します。ただし、毎月4回の開催を原則とし、月5回の月は、1日を休講とします。1日の構成は前半の18時～19時30分が学習の時間、後半の19時40分～21時10分が演習の時間とします。演習では、課題研究の発表、ケース研究、ディベートなどを行い創造力を鍛錬します。前期は9月（予定）にスタートし16回開講し、後期は2月に開講し16回開講します。

No.	開講日 (予定)	学習講座名称	演習課題(計画案:進捗に応じてテーマを変えていきます)
1	9月第1水曜日	開講式:開講にあたって	自己紹介と受講目標、意見交換後、再度の目標設定と報告。
		ビジネスモデル	
2	第2水曜日	まず自社のビジネスモデルを考える	演習:自社のビジネスモデルを報告する。
		事業計画	
3	第3水曜日	事業計画を作成する	演習:自社のビジネスモデルを分析する。
4	第4水曜日	会社の状態を会計数値で管理する	演習:自社(もしくは競合社)の財務諸表を報告する
		基本戦略	
5	10月第1水曜日	新規の市場を創生する	演習:自社のSWOT分析
6	第2水曜日	戦略の基礎と技術経営戦略を学ぶ	演習:自社の事業計画(事業計画書、中期事業計画(3か年))。
7	第3水曜日	会社組織と組織的活動を学ぶ	演習:自社の事業や経営を会計数値で管理(原価計算、損益)
8	第4水曜日	エンジニアリング・ブランドと技術経営を学ぶ	演習:西河塾長の特別講義
9	11月第1水曜日	顧客とのコミュニケーションを考える	演習:自社の戦略、戦術と現状の課題を報告する
10	第2水曜日	ビジネスを会計数値で管理する	演習:経営の実践事例を開く
11	第3水曜日	モノづくりを理解し、生産活動を学ぶ	演習:ブランドコンセプトとブランド構築戦略を報告する
12	第4水曜日	モノづくりを会計数値で管理する	演習:自社の4P+2Cの報告とマーケティング戦略
		中長期計画	
13	12月第1水曜日	中長期計画を作成する	演習:事業別(製品別)収支計算書(原価計算書)を作成する
14	第2水曜日	ビジネスに求められるホスピタリティとセンスウエア	演習:生産技術、エンジニアリング、テクノロジー、科学・開発戦略
15	第3水曜日	商品開発の進め方	演習:原価管理、経費管理の現状と課題と対策
		経営戦略	
16	第4水曜日	企業文化とアイデンティティーを考える	演習:事業拡大に伴う銀行向け中長期経営計画書の作成
17	2月第1水曜日	人材育成と設備投資	演習:技術開発、商品開発、保守サービスなどの開発マネジメント
18	第2水曜日	ICTを活用した新規ビジネス	演習:事業拡大に伴う銀行向け中長期経営計画書2(事業収支)の作成
19	第3水曜日	海外マーケットの市場創生	演習:企業アイデンティティーとブランドの提案
20	第4水曜日	海外におけるモノづくり	演習:ブランド構築と広告のデザイン
21	3月第1水曜日	サービスイノベーションで新規ビジネス	演習:貴社のICT戦略(即時実行、短期計画、中長期計画)
22	第2水曜日	イノベーションを作る経営戦略	演習:ロボットの研究(現状分析、自社の利用、未来志向)
		個別研究	
23	第3水曜日	プロジェクトマネジメント	演習:マーケット観察(競争の場面を見て、調査し、対策を立案する)
24	第4水曜日	M&A、契約、特許申請	演習:サービスイノベーション戦略(中期)を企画する
25	4月第1水曜日	課題研究、報告書と論文の書き方	演習:世界をリードした日本のイノベーション事例を5つ挙げ特徴と理由を報告
26	第2水曜日	マネジメントとリーダーシップ	演習:研究報告書のテーマの設定(研究ノート8ページ以内)と構成
27	第3水曜日	会社を取り巻く法令と規則	演習:市場の看板や広告を研究し、自社の看板を企画する
28	第4水曜日	CSRとマスコミ対策	演習:人材育成上の問題と原因
29	5月第1水曜日	リスクマネジメントと失敗学	演習:研究報告書の概要レビュー
30	第2水曜日	自由課題	演習:マスコミ対策、プレスリリース、重大クレーム対応など
31	第3水曜日	課題発表会(1)	課題発表会(2)
32	第4水曜日	まとめの講座	修了式